

(別紙)

水稻の出穂状況（8月4日現在概況速報）について

- 8月4日現在、県全体で37%の水田で出穂したとみられる。
地帯別の出穂割合は、北上川上流35%、北上川下流41%、東部20%、北部11%である。
- 県全体の出穂始期（10%出穂）は、平年より2日早い8月1日頃と推定される。

表1 水稻の地帯別出穂状況（8月4日現在 各農業改良普及センター調べ）

農業地帯	8/4 現在						出穂時期(月/日)						
	出穂割合(%)						本年		平年			平年差(日)	
	本年	H28	H27	H26	H25	H24	始期	盛期	始期	盛期	終期	始期	盛期
北上川上流	35	33	66	65	18	15	(8/1)		8/2	8/6	8/10	(-1)	
北上川下流	41	41	90	78	14	33	(8/1)		8/3	8/6	8/10	(-2)	
東部	20	54	76	60	14	35	(8/2)		8/3	8/7	8/11	(-1)	
北部	11	29	68	79	12	9	(8/4)		8/4	8/7	8/11	(±0)	
県全体	37	39	83	75	15	27	(8/1)		8/3	8/6	8/10	(-2)	

注) 1 平年値：平成19年～28年の10カ年平均値

2 出穂割合：市町村ごとの出穂している水田の割合

3 出穂時期：市町村単位での判定。始期：10%出穂、盛期：50%出穂、終期：90%出穂

4 出穂割合が10%を超えていても、市町村ごとに到達していない場合は確定できないため、カッコつきの推定値として記載している。

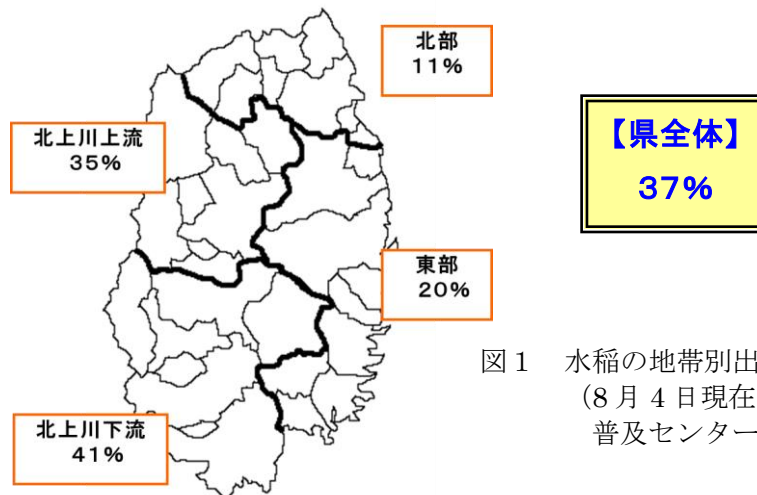


図1 水稻の地帯別出穂割合
（8月4日現在 各農業改良普及センター調べ）

3 栽培管理のポイント

- 出穂・開花期間は最も水が必要な時期なので、田面が露出しないよう湛水状態で管理する。開花終了後は間断灌がい基本とする。
- 東北地方の1か月予報（仙台管区气象台，8月3日発表）によると、向こう1か月の平均気温は、高い確率が50%と予想されている。
気温が高い日が続く場合（概ね日中30℃以上、夜間23℃以上）、高温による玄米品質の低下を回避するため、積極的な水の入れ替えにより地温の低下を図る（特に夜温の低下に努める）。用水の状況から可能な場合、掛け流しを行うことも有効である。
- 早期落水は、収量や品質低下の原因となるので避け、出穂後30～35日経過してから完全落水とする。
- 斑点米の原因となるカスミカメムシ類の発生量は「多」の予想である。水稻の生育に合わせ、穂揃1週間後の薬剤防除を徹底すること。
- 穂いもち病は基本防除を徹底するとともに、必要に応じて追加防除を実施すること。